

# 平和行進活動交流ニュース

発行：原水爆禁止国民平和行進中央実行委員会事務局団体・日本原水協  
電話：03-5842-6035 FAX：03-5842-6033 Eメール：antiatom55@hotmail.com

2019年  
6月6日  
発行

## 核兵器全面禁止・廃絶の声を広島・長崎・世界へ届けよう

北海道→東京コース通し行進者の丸宗市さん（太平洋）の日記を紹介します。

6月2日（日）《28日目》



北海道から新幹線に乗って青森に渡りました。ついですぐに平和公園での北海道と青森の引き継ぎ集会に参加しました。親子連れや若者も多く、220人の集会参加でした。

被爆者の田中さん（92歳）からご挨拶をいただきました。「一日も早い核兵器廃絶を」の訴えに、平和行進の持つ意義を改めて感じました。

北海道原水協の嶋田さんの、子どもアナウンサーの原稿（札幌の行進で子どもが自分たちで考えてスピーチしたもの）の代読も感動的でした。

行進には若者や子どもも多く、熱気が溢れていました。

集会には青森市長からのメッセージも寄せられました。

青森県知事選挙の投票日当日でしたが残念な結果でした。

6月3日（月）《29日目》

今日は7時半にホテルを出発して下北半島に、県知事選挙で連日奮闘してこられた谷崎さんの運転で。途中に六ヶ所村の使用済み核燃料の再処理施設を遠望。

東通村では中間貯蔵施設の建設の補助金による立派な村役場や関連施設を見学しました。住民の複雑な意識を感じざるを得ませんでした。

しかし白糠地区ではホタテ漁を守るため反対の声も多いとのこと。行進への手振りも多く、元気が出ました。



原発の敷地を両断するように、圧力に負けず稼働に反対しているあさこハウス。熊谷厚子さんと話すと江戸川の永井さんが今日泊まりに来るとのこと。偶然の機会にびっくり。

豊かな自然に恵まれた佐井村を行進しながら、原発関連施設の多い下北半島を汚してはならないとの思いを強くしました。青森に戻ったのが20時少し前。ハードながら充実した一日でした。

6月4日（火）《30日目》



矢部さんとはここでしばらくの間お別れです。どこの地域でも核兵器廃絶に燃えています。粘り強い取り組みをしています。元気をもらいます。明日からは青森での太平洋コースのスタート。頑張ります！

昨日は下北半島、今日は日本海コースの応援ということで、秋田県に近い深浦町、鱒ヶ沢町を行進し役場を訪問しました。

深浦町では副町長が自室から手を振って歓迎してくださり、その後懇談。「ヒバクシャ国際署名」とメッセージ、ペナントの記入、協賛金をいただきました。鱒ヶ沢町でも町長の肩書き署名（総務部長代筆）をいただきました。

浪岡での引き継ぎ集会ではコープの赤いエプロン姿が印象的でした。

約60人の参加でした。日本海コースの

6月5日（水）《31日目》



（現町長のお父さんー元町長）が。

野辺地町は県内で最初に国に対して核兵器禁止条約の調印・批准を求める意見書を採択した町。対応した副町長も核兵器廃絶に向けて頑張ることを力強く話していただきました。

行進には若者も多く参加し、県内行進者の谷崎さんの太鼓も効果的でした。

今日は青森での太平洋コースのスタート。9時すぎに教育会館前で出発式、被爆者の田中さん（92歳）が激励の挨拶。平和行進の大切さを改めて感じました。

4つの町と村を訪問し懇談。平内町では、町長のペナント、協賛金とともに、83人分の「ヒバクシャ国際署名」をいただきました。中間処理施設のある六ヶ所村の村長が「皆さんの運動は私の心の支え」と発言、参加者全員が感激していました。

横浜町長の部屋には核軍縮を詠んだ短冊

